

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2015年8月29日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

生活が苦しい。退職勧奨。医療・介護も大変。
深刻な相談あいつぐ チカホで相談会



8月25日、札幌地下歩行空間で「雇用・くらし・SOSネット街頭相談会」を行いました。

会場には、法律、生活、労働、医療、健康のコーナーが設けられ、88人が相談に訪れ、弁護士、司法書士をはじめ生活、医療・介護、労働、債務などの専門家34人が無料で相談に応じました。

中には深刻な相談もありました。主な相談内容を紹介します。

「所持金5千円」九州から辿りついて 【生活相談】

「今日フェリーで苫小牧に着き、札幌にきました」という40代の男性は、偶然相談会場を通りかかりました。「以前、愛知で派遣切りにあい、北海道で一時生活していました。その後、生まれ故郷の九州で働いていましたが、仕事がうまくいかず縁のあった札幌に辿りつきました。体の調子も悪いです。最悪路上生活を覚悟していました」と話します。所持金は5千円でした。その日は、一時生活支援事業所に入所し、翌日生活保護申請をしました。

「年金が月10万しかない」「失業中でアルバイトしているがくらしが大変」など、現在や将来に渡っての心配が寄せられました。近いうち生活保護申請を検討した方がいい方も多くいました。

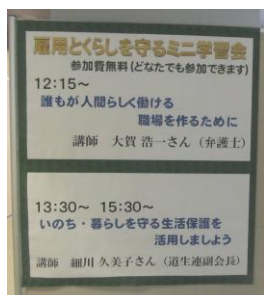
医療費、介護利用料払えない 【医療介護相談】

「娘が無職のため、お金が心配で病院にかかれない」「『そろそろ退院してください』と病院から言われているが、退院後の制度を教えて」などの相談が寄せられました。

介護相談では、「介護保険施設の食事代・居住費が2倍に値上げされると言われた」と相談もありました。

退職勧奨や低賃金 息子の仕事が心配 【労働相談】

「20年間勤務している会社から退職勧奨を受けている」「時給750円で働いているが生活が大変。来月から最低賃金が16円上がるが、時給が上がらなかつたらどうしたらよいか」などの相談もありました。また、派遣で働いている息子の労働実態を心配する相談もありました。



「雇用とくらしを守るミニ学習会」も3回行われ、延べ60人が参加し好評でした。くらしに役立つ制度を掲示したパネルには、多くの市民が足を止め制度について質問されるなど、用意していたパンフレットやチラシもあっという間になくなりました。今後も、多くの方に利用してもらえるように、電話相談会も行う予定です。

『道民のくらしの役立つハンドブック』2015年度版は、9月発売予定